

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

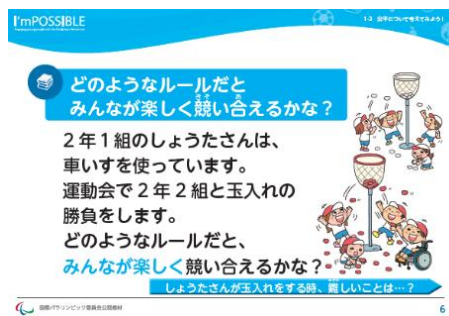
## 事業実施報告書



- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 周南市立岐山小学校 】

1 実践テーマ	I・II (III)・IV・(V) (複数選択可)
2 実施対象者	全校・全学年
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (道徳・体育)</p> <p>② 行事名 (オリンピックによる運動教室・講演会)</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、道徳授業を通して、インクルーシブな社会とは何かについて考えることができるようになる。</p> <p>(2) オリンピアンを招いての運動教室・講演会、ボッチャ体験（山口レクリエーション協会）を通して、本物に触れ、実際に体感することで運動意欲の向上を図る。</p>
5 取組内容	<p>(1) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」の活用</p> <p>① 道徳科「公平について考えてみよう！」</p> <p>車いすの友達が運動会の玉入れに参加するには、どんなルールをつくれればよいかについて考えることで、真の公平とは何かについて議論した。授業開始時、「公平＝みんな同じ、特別扱いなし」というのが学級全体の意見だった。授業を通して、「本当の公平とは、その人を思いやることだ。」「相手の気持ち大切にしないといけない」など授業後の振り返りには、価値に対する変容が見られた。また、参観日に実施することで保護者とも共有することができた。</p>



	<p>(2) 本物に触れ、実際に体験する</p> <p>① オリンピアンによる運動教室・講演会 陸上十種競技、日本記録保持者の右代啓祐選手を招いての運動教室を行った。走・跳・投の実演から、本物の力と技に触れることで、オリンピックへの興味関心が高まった。また、実演するだけでなく児童と対決をすることで、すごさもより身近に感じることができた。質問コーナーでは、競技についての話だけでなく、自らの生き方や努力についての話もあり、スポーツに関心のない児童にとっても、「夢」について考える絶好の機会になった。</p>  <p>③ 山口県レクリエーション協会と連携したボッチャ体験の実施 山口県レクリエーション協会から5名の方を招いて、低学年で出前授業を行った。ボッチャの概要・ルールについて説明があり、その後、実際にゲームを体験した。事後、学年対抗ボッチャ大会を開催する学年もあり、体験を通しての興味関心が続くような工夫が見られた。</p> 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「I 'm POSSIBLE」を様々な授業に活用したことで、パラリンピックへの興味関心のみならず、スポーツを通じたインクルーシブな社会の実現への意欲も喚起された。</li> <li>本物に触れ、実際に体験することで、それぞれの競技に関心を持つとともに、「もっと～したい。」「私も～になりたい。」という肯定的な思いをもつことができた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>体育委員会で「すごいぞ右代選手コーナー」を開設して当日への意欲を高めたり、事前に動画を視聴することで興味をもって参加できるようにしたりとそれぞれの活動がつながるように工夫した。また、道徳授業で、「I 'm POSSIBLE」を活用するなど、教師がねらいをもち、教科を横断してカリキュラムマネジメントしていくことを大切にした。</p>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を実践することを目的化するのではなく、学級・学校全体でインクルーシブな社会の実現に向けて考えるきっかけになるよう、仕組みでいかなければならない。</li> <li>著名人を招くことは、児童にとって貴重な機会となることに間違いはないが、深い学びへとつながっていくよう、事前・事後の教育活動を充実させる必要がある。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<p>今回、オリンピック・パラリンピック教育推進校として、子どもたちの興味関心、運動意欲の向上に少しでもつながっていくよう計画を進めていった。オリンピックを通して、本物に触れることはもちろん大切な経験となるが、地域のスペシャリストを招いたり、様々な授業でオリンピック・パラリンピックに触れたりするだけでも十分な機会となるように思う。学校全体でスポーツを「する」「観る」「支える」「知る」雰囲気来年も継続してつくりたい。</p>